

宅建マイスターとは？

宅建マイスターは「宅地建物取引のエキスパート」

取引に内在するリスクを予見し、緻密かつ丁寧な調査を行い、それを重説・契約書に反映し安全な取引を成立させる能力を有する、一般消費者の高い信頼を得られる称号です。

不動産の悩みを相談するなら不動産のプロフェッショナルへ！

動画 不動産の悩み、誰に相談する？



宅建マイスター

資格取得のメリット

- 1 不動産総合情報サイト「不動産ジャパン」で消費者に直接アピール
不動産ジャパン
www.fudousan.or.jp
- 2 宅地建物取引士法定講習の講師として活躍
- 3 「宅建マイスターメンバーズクラブ」メンバーに自動登録
- 4 全国規模のネットワークづくり

試験対策

効率的な試験対策として講座とテキストをご用意しています。



講習で学ぶ

宅建マイスター入門研修

動画とテキストで学ぶ講座です。



動画受講

受講料	テキスト付 22,000円(税込) / テキスト無し 20,000円(税込)
申込期間	2025年9月24日(水)～2026年1月8日(木) 17:00
受講期間	●第1ステージ視聴期間 2025年10月10日(金)～2026年1月27日(火) 23:59 ●第2ステージ視聴期間 2025年12月上旬～2026年1月27日(火) 23:59

テキストで学ぶ



「宅建マイスターテキスト～不動産プロフェッショナル必携～改訂版」
2,600円(税込・送料別)
●2023年10月発行



「宅建マイスター認定試験過去問題・解説(過去4回分)」
2,000円(税込・送料別)
●2023年3月発行

不動産流通推進センターはリスキリングを推進しています

リスキリングサポートプログラム

<https://www.retpc.jp/reskilling/>



推進センターの「リスキリングサポートプログラム」サイトでは、研修・講習、資格認定、支援ツール・出版物など様々なコンテンツをご用意して、資格取得後の継続学習をサポートしています。



認定試験、講座、学習方法に関する電話相談受付中！

TEL 03-5843-2078 [受付時間] 11:00～15:00、土日祝、第1・3・5金曜を除く
※担当が不在の場合は折り返しご連絡させていただきます。 e-mail meister@retpc.jp

公益財団法人 不動産流通推進センター

あなたは
そのリスクに気が付きましたか？

2026年 第10回 宅建マイスター認定試験

試験日	2026年1月28日(水) 13:00～15:00
受験申込受付期間	2025年10月1日(水) 10:00～2026年1月8日(木) 17:00
試験地	●東京会場 ●大阪会場
受験料	15,000円(税込)
受験資格	現在、以下の要件を満たしている方で、試験当日、有効な宅地建物取引士証を提示できること。 ・宅地建物取引業に従事 [*] している方 ・宅地建物取引士証取得後、5年以上の宅地建物取引業の実務経験を有していること。 [*] 勤務先が宅地建物取引業の免許(宅地建物取引業法第3条)を有している必要があります。 ※第10回宅建マイスター認定試験において、昨年度(第9回認定試験時)に実施していた受験メリットの適用はありません。
試験内容	記述式試験(コンプライアンス、売買契約、重要事項説明) ※出題範囲は、令和7年7月1日現在において公布されている法令によります。
合格発表	2026年2月下旬予定

<https://www.retpc.jp/meister/> 宅建マイスター 検索



公益財団法人 不動産流通推進センター

あなたの “リスク気づき度”は？

過去問に
挑戦！



【記述問題】

宅建マスターAは、X株式会社(以下「X社」という。)のB社長から、物件甲(X社の本社工場)と物件乙(B社長の自宅)の売却の相談を受けた。物件甲及び物件乙における自然災害のリスクについて、資料1から3を見て、次の設問に答えなさい。 *2020年度に出題された問題です。解答例は右下にあります。

自然災害のリスクに
気づけるかな？



問1

物件甲の所在する土地について、予想される自然災害に関するリスクを指摘し、その理由を解答用紙の解答欄に簡潔に記入しなさい。
(本問では、軟弱地盤を原因とした自然災害リスクは除外するものとする。)

問2

物件乙の所在する土地について、予想される自然災害に関するリスクを指摘し、その理由を解答用紙の解答欄に簡潔に記入しなさい。



資料が見えにくい場合は
こちらからご覧ください



宅建マスター
テキストのP298～も
参考になります

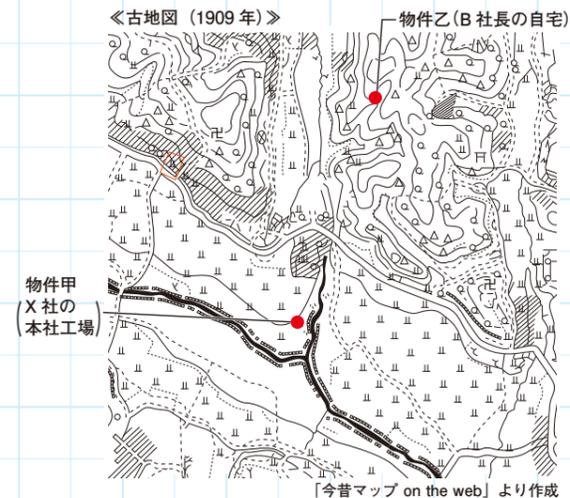


もっと
チャレンジ
したい人

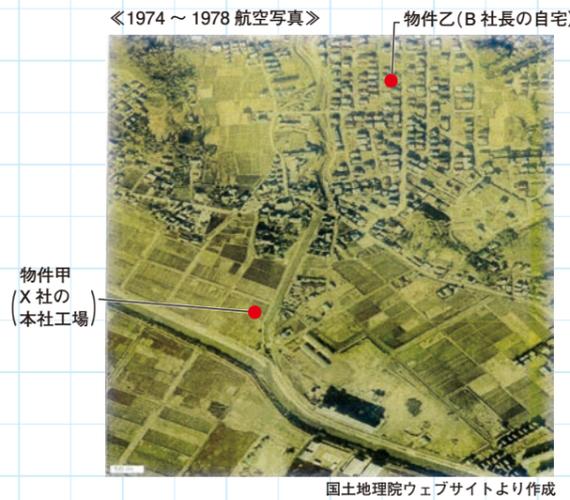
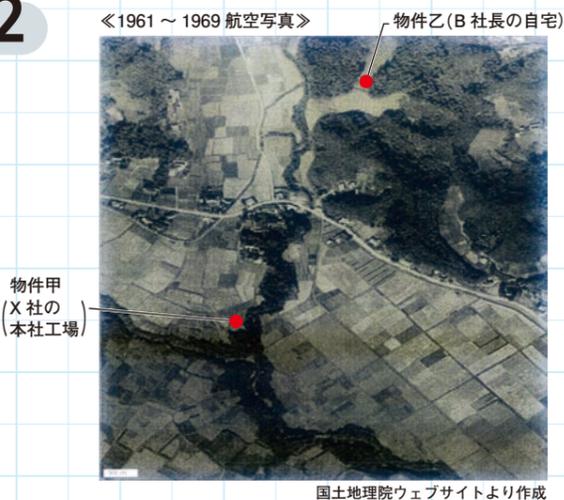
その他の過去問題は
こちらからご覧ください



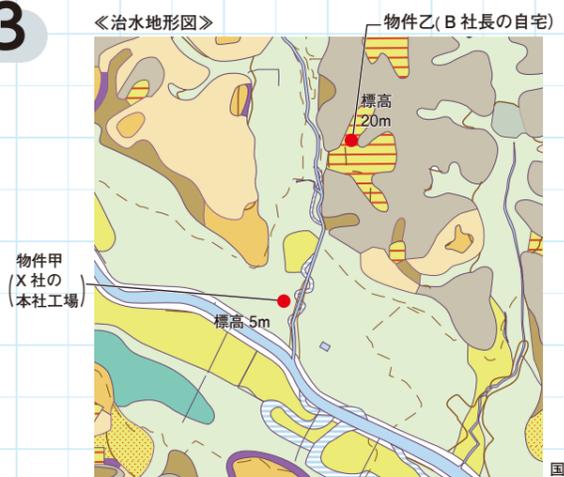
資料1



資料2



資料3



大分類	中分類	小分類	細分類	記号	大分類	中分類	小分類	細分類	記号		
山地	台地・段丘	段丘面	崖(段丘崖)		人工改変地形		盛土地・埋立地				
			浅い谷				切土地				
							連続盛土				
低地	山麓堆積地形	扇状地	扇状地		その他の地形等		天井川の区間				
			氾濫平野				現河道・水面				
			氾濫平野	後背湿地				旧流路			
			扇状地	微高地(自然堤防)				S.30年代後半～S.40年代前半			
			氾濫平野	旧河道			旧河道(明瞭)			S.20年代	
			旧河道(不明瞭)					T.末期～S.初期			
				M.末期～T.初期							

解答例

- 問1 (自然災害に関するリスク) 大雨による支流のバックウォーター現象により洪水が発生するリスク
理由: 物件甲は、河川の支流と本流の合流地点に近く、大雨により増水した本流の水位の上昇によって支流の水が合流できずにせき止められ、行き場を失った支流の水流が逆流することで、氾濫が起きる可能性が高い。
- 問2 (自然災害に関するリスク) 盛土造成地であることによる土砂災害・宅地崩壊の起こるリスク
理由: 現状の地図、古い航空写真、古地図及び治水地形分類図等から総合的に判断すると物件乙の所在する土地は、谷を埋めて造成された大規模盛土造成地、いわゆる「谷埋め盛土」による造成地の可能性が高い立地であることが分かる。谷埋めした新しい地盤は人工的な地盤であり、切土された地盤に比べて弱く、地震等の大きな揺れにより、地滑りや崖崩れ等を起こす可能性がある。

あなたも「宅建マスター」にチャレンジしてみませんか
宅建マスター認定試験の申込締め切り

2026年1月8日(木)17:00

お申し込みはこちらから

